

○女子教育に就て

鹽 野 生

我が國へ西洋の學問が輸入してより、女子の教育も誠に必要なるものであるといふことが分り、俄に女子教育の説行はれ、今日では全國中男女とも同じ様に學校に這入るやうになりたれども、何分此の女子の教育といふ事は、昔は無かつた事で、有つたにしたところ、女大學、女今川を讀む位であつたが、急に女子も男子の如く高尚な教育をするやうになつた故、忽ち惡風俗を起すの傾向になつた、しかし世の教育家が段々矢笠しく言つて、近年は漸々宜しくなつた様なれども、未だ思慮すべく矯正すべき點は數へ切れぬ程である、教育家たる者は能く心を潜めて、改良して行かねばならぬ事である、一体女子を教育するの必要は何れにあるかと言へば、茲に言はずとも知れたことであるが、所謂良妻賢母となつて、能く一家を整理しよく舅姑に仕へ、能く夫を助け能く子女を養育して天下國家の用に立てしむるために外ならぬので

ある、然るに往々にして子女の教育を受けしがために却て親を侮り、舅姑には善く仕へず、口には高尚にして日用不用の道理を説き、今日毎日必要欠くべからざる家事上の事を知らず、氣位のみ徒らに高きに馳せて日常の家事を執るを屑しとせざる心得違ひの者多きは事實争ふべからざる事である、誠に心の卑くして簡違ひの事と言はねばならぬ、斯くの如さに至りては如何に學問をするも何の役にも立たざるのみならず、折角時日と金錢を費して其の子女を惡しき者にする者と言はねばならぬ、此の嘆すべき惡結果を生せる原因は種々なる方面より依て起るものなれども、一は以て女子の教育に従事する教員其人の罪にもある、何となれば彼の女教員中には往々未だ年少にして、先々々々と言はれて月給でも取つて居るのを以て意氣揚々として得色ある者多きを見る、人は高尚なる心を以て教育するも、尙善き事には感化し難きものなるに、斯る卑劣なる心を以て教育したらんには如何にして善良なる生徒を養成することを得るか、心淺き人は兎角家事などを務むることを肩

しとせず、唯書物でも讀み机にでも倚て居れば氣高い様に思ふ、是れ固より卑劣千万なる根性より來ることである、精神だに高尚になれば如何に貧乏をして居るも、如何に賤業を執りて居るも心に耻づる事がない、故に女子教育に従事するものは先づ自ら高尚なる精神を以て従事せねばならぬ、已れが心卑劣にして如何に立派なる事を言つても、如何に立派なる様子をしても、迎も人を感化することの出來るものでない。

又教員のみならず親たるものも小兒を善き者にしやうと思ふには家庭の教育に注意せねばならぬが兎角兩親も眞正に身を修めて居る者でなければ如何に小兒に訓戒しても聞くものでない、夫故に兩親が先づ正しくせねばならぬ、夫れが出來ぬ者であるから小兒までいけなくするといふは遺憾な事である、思ふに教員は自分の職掌柄であるから教育の理論方法等は幾分か自ら研究する事であるか、家庭の兩親に至つては家業の爲めにさういふ研究の暇もなく、實際行ひ難き事である故兩親の心得より小兒を育てるに就ての事など、古人今人

の金言理諺とかいふ様な事より家庭教育に極く要るな事のみを簡單な語にして綴り、仮名でも附けて極く分り易き様にして、子弟を有する父兄の手に備へさせる様にして、一日に二三行位にてもよく讀みよく守らせて行く様にすれば大に簡易にして効果のある事であらうと思ふ、然らざれば忙しき父母兄弟或は愚父愚母に至つてはとういふ風小兒を育つればよいかといふ事も分らず、唯食事と興へて小兒の手足さへ伸ばせば紐たる義務の濟む様に思ふ、それで家庭で無茶苦茶な事をして居るから學校に行つてもどうも甘くないかぬのである、故に予は小兒を有する兩親に讀ます最も簡易にして有益なる著述あるを望むのである、世の女子教育に任ずる者は先づ自ら心を高尚にするばかりでなく兩親に讀ます極めて平易の書物を著述せられんことを希望するのである、實に女子教育は國家の上に取りて重大なる影響を及ぼすものであるから教育家たるもの最も力を盡さねばならぬ所である。